

## 編集後記

6月とは思えないような酷暑に耐え、少し涼しい風が吹くようになった7月のキャンパスで本稿を執筆しています。関東地方では観測史上最速の梅雨明けが6月に宣言され、梅雨の期間も観測史上最短となりました。その時分は梅雨が明けてさらに暑くなるのではないかと身構えていましたが、今月中旬に差し掛かるなか、梅雨かと思ふほど東京には雨が降り注ぎ続けています。2020年初めから猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、国内の新規感染者が1日当たり10万人を超えるなど感染が収まる気配は未だ見られませんが、街には人が溢れており、人々はこの新たな感染症と共存していく道を見つけたようにも思えます。

今号の論文の掲載に当たっては編集委員会で何度も議論を交わしました。玉稿をお寄せ頂いた先生方、意欲的な論考を投稿下さった先生方のお陰様で、多数のとても興味深い論文を掲載できる運びとなりました。心より御礼申し上げます。今回掲載が叶わなかった先生方も、是非とも次号に投稿頂ければと思います。

\* \* \*

弊誌『Law&Practice』は米国のロースクールにおけるローレビューのように学生が主体となって発行するローレビューとして2007年に創刊され、以来早稲田大学法科大学院の学生有志により発行されています。

米国のロースクールでローレビューの編集に携わっているのは3年制のJ.D.コースの学生です。早稲田大学でも法科大学院ができた当初は3年制のコース（未修コース）が多数を占めていたのですが、現在は2年制のコース（既修コース）が中心になっています。

また、司法試験法が改正され、これまで司法試験は法科大学院を修了するまで受験できなかったところ、来年度から法科大学院の最終学年の学生も一定の条件を満たせば在学中に司法試験を受験できるようになりました。

2年制のコースが中心となり、さらに在学中受験が認められると、在学中にはこれまで以上に司法試験に向けた勉強をすることが求められるようになります。実際に新制度による在学中受験を来年に控えた2年生（既修コース）は、全ての授業が司法試験で必要な科目の授業となり、授業の予習や復習、中間・期末試験に向けた学修に追われているようです。

その結果、創刊当初と比べて法科大学院に通う学生の日々の生活は慌ただしいものとなり、司法試験に必要な七法や選択科目以外の授業や課外活動に割く

ことのできる時間や労力は減少しています。

\* \* \*

このように日本のロースクールにおいて学生が主体となって発行するローレビューを取り巻く環境は年々非常に厳しいものになっています。このような逆風下で今号も無事発刊に漕ぎ着けることができたのは、論文の執筆を御快諾くださった先生方、編集や運営などあらゆる面で有益なご助言を下された早稲田大学法科大学院の先生方、稲門法曹会を中心とする本学の卒業生・修了生の先生方、ご寄付を賜った先生方のお陰です。皆様のご厚志が無ければ、運営や編集作業は必ずどこかで行き詰まっていたと思います。心より深謝申し上げます。今後ともご指導頂けますと幸いです。

また、今号も三美印刷株式会社様には出版まで粘り強くご助力頂き、また編集段階でもご苦勞を賜りました。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

また、このような状況下でも多くの優秀な新入生が入会してくれました。これまでの慣例にとらわれず、理論と実務の架け橋となれるよう、『Law&Practice』の編集や刊行にとどまらず、多様な活動に取り組んで貰えればと思います。皆さんの活動の成果や、次号に掲載される多様な論考を拝読することを心の底から楽しみにしています。

編集長 吉田 悟巳